

2 鳴門市の概況

2-1 地域概況

鳴門市は、四国の東部、徳島県の東北端に位置しており、鳴門海峡をへだてて淡路島に対峙し、本州と結ぶ四国の東玄関をなしている。北部は瀬戸内海国立公園に指定され、北に播磨灘、東に紀伊水道をのぞみ、鳴門海峡の急流と逆巻く渦潮でその名を知られた景勝地である。

平成10年に神戸淡路鳴門自動車道が開通し、さらに平成14年には高松自動車道が全線開通したことから、四国・本州の交流拠点としての位置づけが高まり、恵まれた自然や歴史、文化などの観光資源を有機的に結んだ広域観光誘致事業を展開するとともに、「鯛」「ワカメ」「さつまいも」「塩」など数多い地域特産物の供給基地としての体制づくりを進めている。



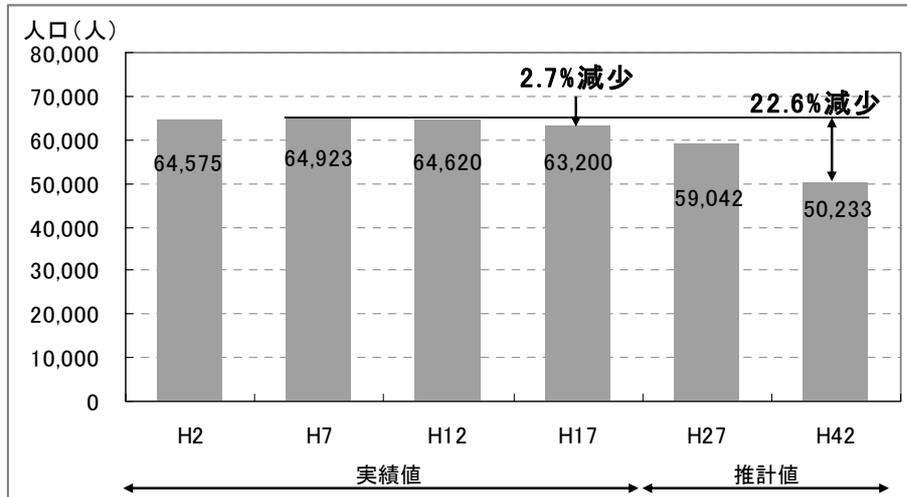
図一鳴門市の位置

2-2 鳴門市の人口

(1) 人口の推移

鳴門市の人口は、平成7年をピークとして減少傾向に転じており、平成7年から平成17年にかけて約2.7%減少している。

国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口によると、平成42年には約50,200人まで減少すると予測されている。



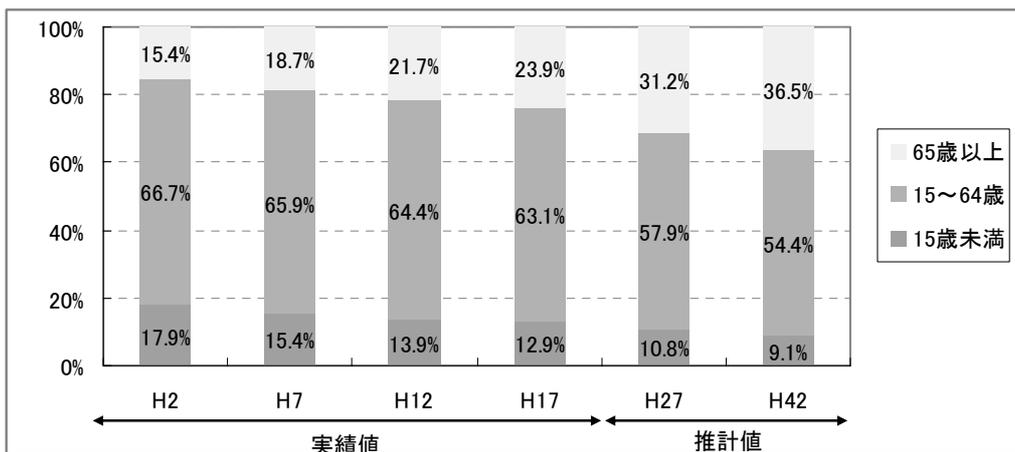
資料：国勢調査（H2～H17）、日本の市町村別将来推計人口（H27、H42）

図一人口の推移

(2) 年齢3区分別人口

鳴門市の年齢3区分別人口をみると、高齢者の割合が年々増加する傾向にあり、平成17年で約24%と、4人に1人が65歳以上の高齢者となっている。

今後も高齢化は進展し、平成42年には約37%まで増加すると予想されている。



	H2	H7	H12	H17	H27	H42
15歳未満	11,546	10,007	8,988	8,170	6,383	4,549
15～64歳	43,008	42,745	41,609	39,892	34,211	27,349
65歳以上	9,954	12,140	13,991	15,124	18,450	18,334
計	64,508	64,892	64,588	63,186	59,044	50,232

資料：国勢調査（H2～H17）、日本の市町村別将来推計人口（H27、H42）

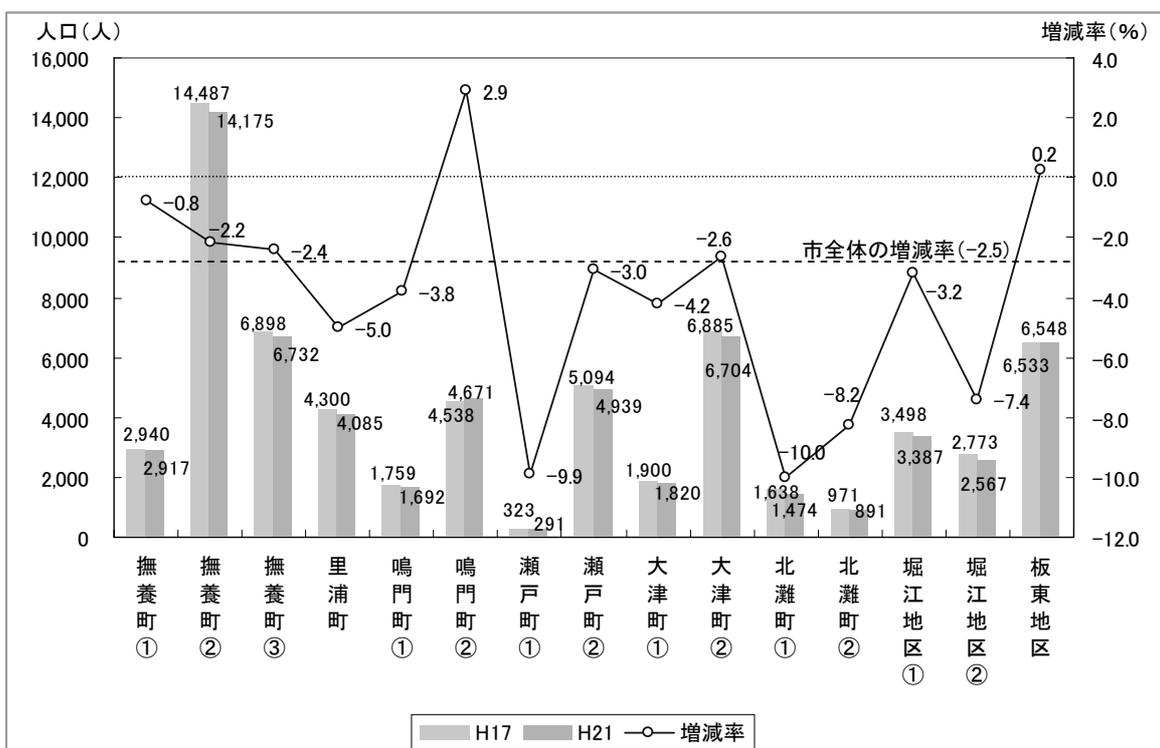
図一年齢3区分別人口の推移

(3) 地区別人口

地区別人口をみると、撫養町②の人口が最も多く、次いで撫養町③、大津町②、板東地区、瀬戸町②、鳴門町②の順となっており、鳴門駅周辺を中心として、JR線沿線の地区と小鳴門海峡沿いの地区に人口の集積が進んでいる。

一方、瀬戸町①、北灘町①、北灘町②など、市北部の沿岸・島しょ部の人口が少なくなっており、また、平成17年度から平成21年度の推移においてこれら地区の人口減少率は高く、過疎化の進行がうかがえる。

高齢化率においても、鳴門町①、瀬戸町①、北灘町②など、市北部の沿岸・島しょ部の高齢化率が高くなっており、これら地区では、3人に1人が65歳以上の高齢者、4～5人に1人が75歳以上の高齢者となっている。



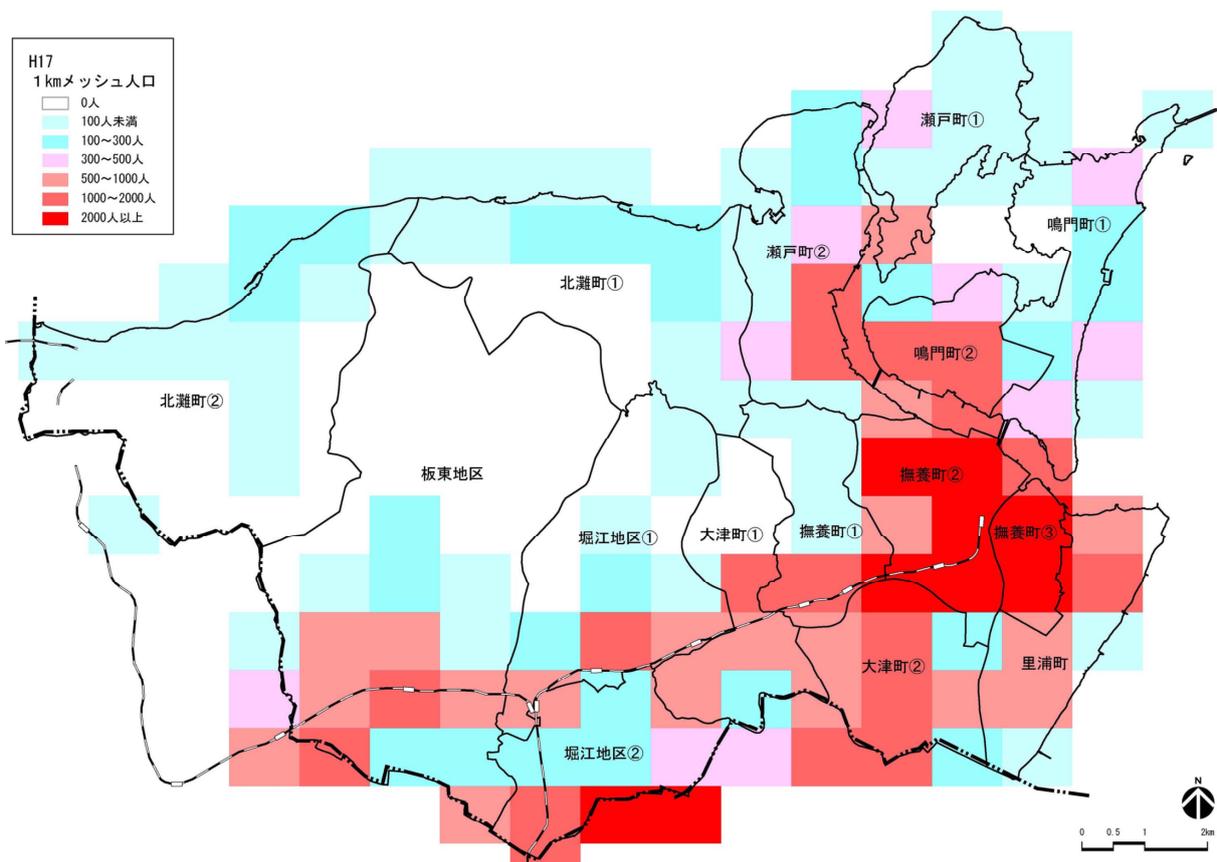
注) 各年4月1日現在

地区区分の内訳は以下のとおり

- 撫養町① : 木津
- 撫養町② : 南浜、斎田、黒崎、大桑島、小桑島
- 撫養町③ : 林崎、北浜、弁財天、岡崎、立岩
- 里浦町 : 里浦、粟津
- 鳴門町① : 土佐泊浦
- 鳴門町② : 三ツ石、高島
- 瀬戸町① : 小島田、中島田、大島田、室、撫佐
- 瀬戸町② : 明神、堂浦、北泊、湊谷
- 大津町① : 大幸、段関、大代
- 大津町② : 備前島、木津野、吉永、矢倉、徳長、長江
- 北灘町① : 櫛木、粟田、大浦、宿毛谷、鳥ヶ丸
- 北灘町② : 折野、大須、(碁浦)
- 堀江地区① : 姫田、大谷、池谷
- 堀江地区② : 高畑、松村、牛屋島、東馬詰、中馬詰、西馬詰、市場
- 板東地区 : 萩原、三俣、川崎、津慈、板東、桜

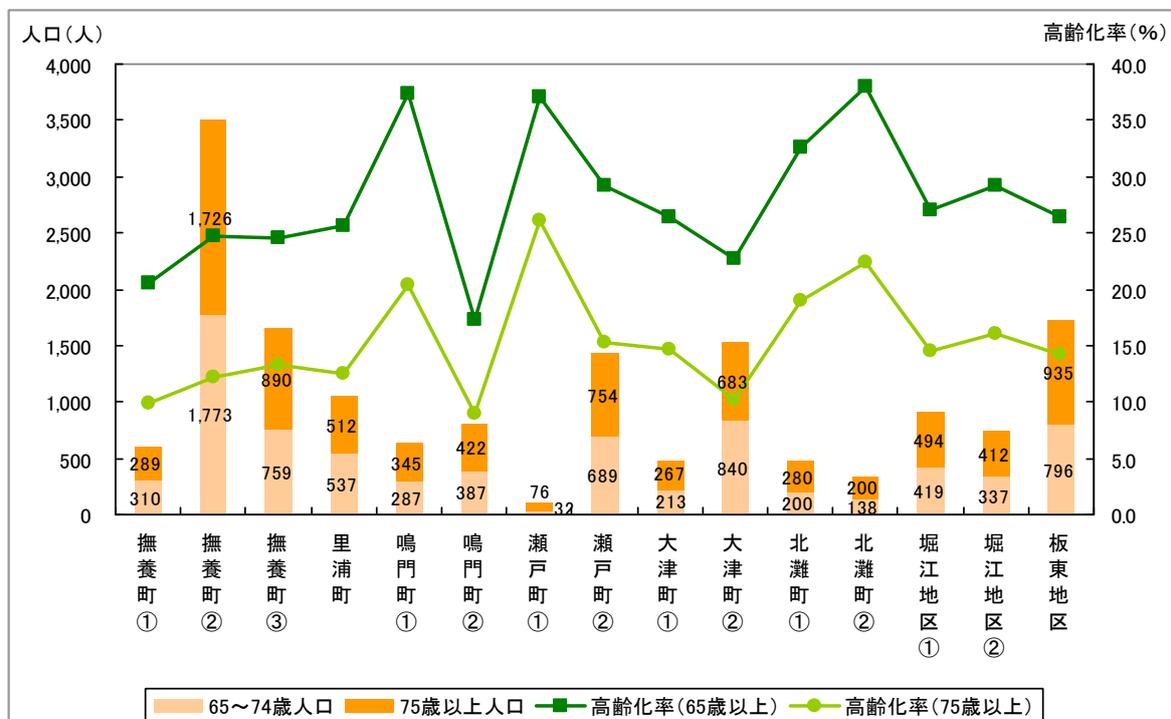
資料 : 市提供資料

図一地区別人口



資料：国勢調査（H17）

図－1 km メッシュ人口



注) 平成 21 年 4 月 1 日現在

資料：市提供資料

図一地区別高齢者人口

2-3 主要な施設の分布状況

(1) 公共施設

主要な公共施設は、JR 鳴門駅、撫養駅周辺の中心市街地に位置しており、いずれの施設もバス路線沿線の立地となっている。

中心市街地以外では、連絡所が各地域に分散し立地するが、これら施設もバス路線沿線に位置している。

(2) 医療機関

市内の主要な医療機関としては、徳島県保健医療計画において2次救急対応医療機関に位置づけられる健康保険鳴門病院、兼松病院があり、バス路線沿線に位置している。

その他の主要な医療機関としては、鳴門市医師会において在宅当番医制医療機関に位置づけられる医院等が多数あるが、その多くは鳴門市中心市街地に位置し、鳴門駅を起点とする市営バス網により、市内各地からのアクセスが可能となっている。

また、南海病院はバス路線の無い土佐泊地区に位置するが、バス路線・岡崎渡船の乗り継ぎによりアクセスが可能となっている。

(3) 教育施設

市内の教育施設は、島田小学校、堀江南小学校を除き、バス路線沿線に位置している。

通学距離の長い北灘東小学校、北灘西小学校、鳴門東小学校などにおいては、市営バス路線を児童が通学に利用しており、地域バスの里浦粟津運動公園線は、里浦小学校のスクールバス機能を兼ねている。

(4) 商業施設

市内の商業施設は、JR 鳴門駅付近の中心市街地に集積立地するほか、幹線道路沿いに沿道型の大規模商業施設の立地がみられ、これら施設の大部分は、バス路線沿線に位置している。

(5) 観光施設

鳴門市の代表的な観光資源として鳴門海峡における渦潮があり、鳴門海峡を望む岬部には鳴門公園が整備され、また、大塚国際美術館や観潮船乗り場が立地するなど、本市の拠点的な観光エリアを形成している。これら施設へのアクセスとして、市営バス鳴門公園線が運行されているほか、徳島バス鳴門線の一部が乗り入れている。

その他の観光施設としては、ドイツ館等の文化施設、史跡や社寺、公園等があるが、史跡や社寺を除く公園や美術館、博物館等の集客施設については、概ねバス路線沿線に位置している。



図一 教育施設の分布状況

- 教育施設分布
凡例
- 小学校
 - 中学校
 - 高等学校
 - 大学
 - バス路線
 - 渡船
 - +— JR
 - - - 市町村界

